

# ボランティア活動を考える

選 択

開講年次：2年次前期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

**■科目のねらい：**ボランティア活動は身近な支え合いの活動として私たちの生活に密接に関係しています。しかし、ボランティアを正しく理解するような学びは決して多くありません。私たちの身近なボランティア活動を取り上げ、ボランティアの魅力や効果をグループワーク形式による学生の相互交流により理解します。また、ボランティア活動の実践に向け、ボランティア活動で発生する課題や留意点について考えます。

- 到達目標：**
- ①ボランティアの理念とボランティア活動の基礎を学ぶ
  - ②ボランティア活動の幅広さ、身近さを理解する
  - ③ボランティア活動と自身の生活とのかかわりを理解する

**■担当教員：**篠原 辰二

**■授業計画・内容：**

- 第 1 回 ボランティアとは
- 第 2 回 ボランティアの価値
- 第 3 回 ボランティアと心理
- 第 4 回 ボランティアのあゆみ
- 第 5 回 災害とボランティア
- 第 6 回 生活とボランティア
- 第 7 回 国際社会とボランティア
- 第 8 回 大学生とボランティア
- 第 9 回 ボランティアと教育
- 第10回 ボランティアとまちづくり
- 第11回 ボランティアの組織化
- 第12回 ボランティア活動の支え手
- 第13回 ボランティアコーディネート 1
- 第14回 ボランティアコーディネート 2
- 第15回 まとめ

**■教科書：**指定する教科書はありません。毎回、講義レジュメを配布します。

**■参考文献：**岡本榮一・菅井直也・妻鹿ふみ子編『学生のためのボランティア論』大阪ボランティア協会 2006  
日本ボランティアコーディネーター協会編『市民社会の創造とボランティアコーディネーション』筒井書房 2009

**■成績評価基準と方法：**

①授業における参加度・態度

主体的な参加（質問、発表、グループワーク等の積極性）をしているか。また、授業態度は良好か。

②授業内レポート（リアクションペーパー）

各回のテーマを理解し、到達目標をふまえた自身の見解を簡潔明瞭に表現しているか。

③レポート

本科目のねらいを理解し、各回のテーマごとの連動性を加味した全体的な見解を簡潔明瞭に表現しているか。

評価方法	到達目標			評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	
授業参加度・態度	重視	重視	重視	30%
授業内レポート	重視	最重視	最重視	30%
レポート	重視	最重視	最重視	40%
出席回数	2/3以上の出席(欠格条件)			

**■関連科目：**特になし

**■その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）：**ボランティアの理念や活動を理解することは、社会生活や就職後の仕事において役立つことがあります。また、自分自身の知識や見解を広げること、多様な価値を受容する方法を学ぶことにもつながると思います。ボランティア活動経験のない方でも安心して履修できます。